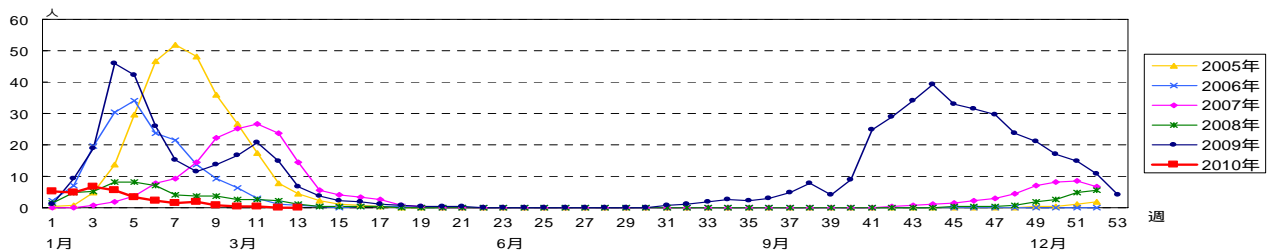


横浜市インフルエンザ流行情報 総括号

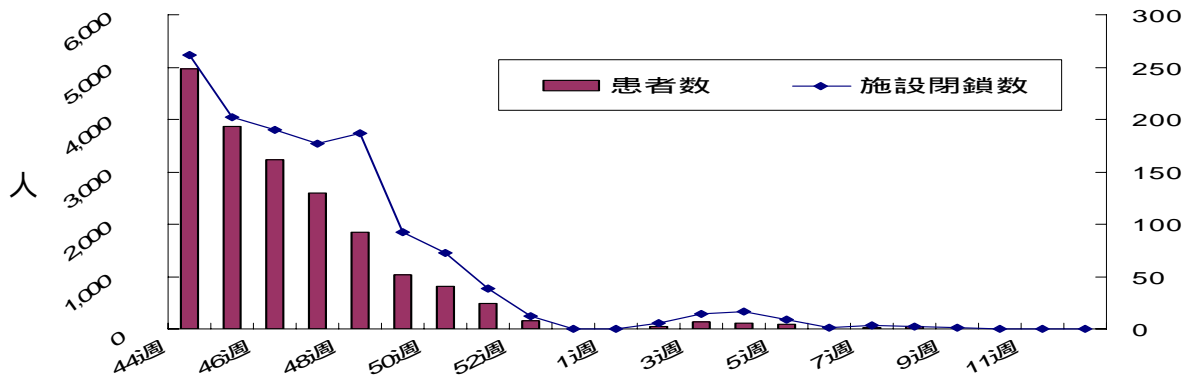
横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

1 今シーズンの定点医療機関 (市内 145ヶ所、小児科 88ヶ所含む) 当たりの報告数推移

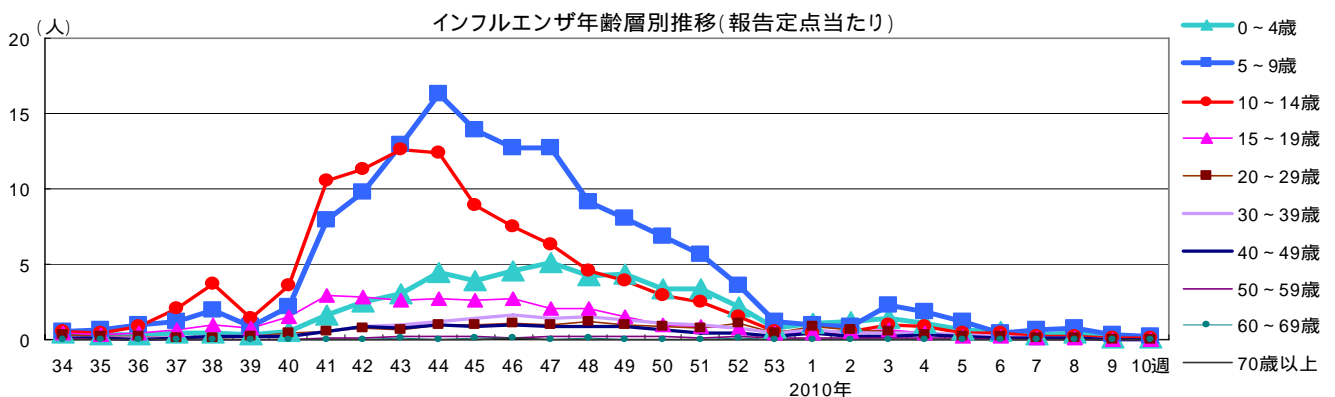
第 33 週(21 年 8 月 3 日からの週)に、流行の目安となる定点医療機関当たりの報告数が1を超え、第 44 週(10 月 26 日からの週)では 39.18 と最大の報告数となりましたが、第 9 週(3 月 2 日からの週)には 0.59 と、定点当たり1を下回り、第 13 週(3 月 29 日からの週)では 0.03 となっています。



2 施設閉鎖状況: 施設閉鎖数、患者数共にサーベイランスの開始の第 44 週がピークで、以後漸減しています。

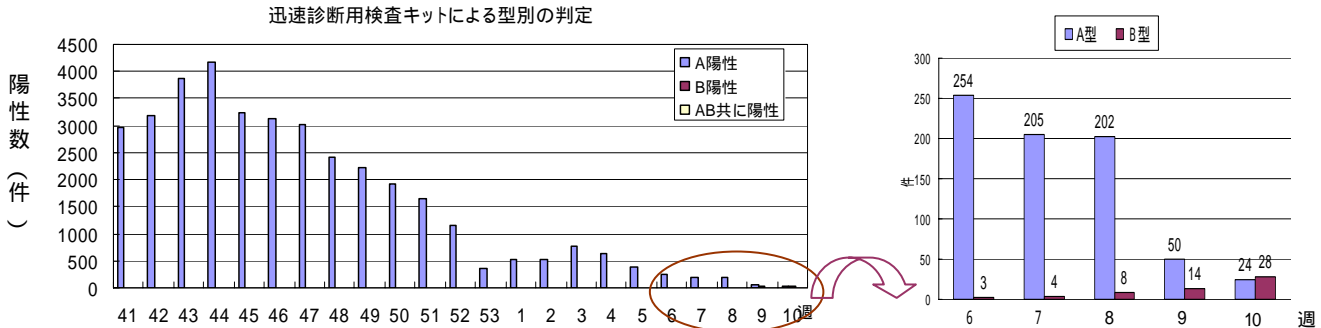


3 年齢層別推移: 流行のピーク第 44 週付近までは、10～14 歳の小学校高学年から中学生相当の年齢層に多く患者が見られましたが、第 44 週以降は、通常のシーズンと同様に、10 歳未満に多く見られました。



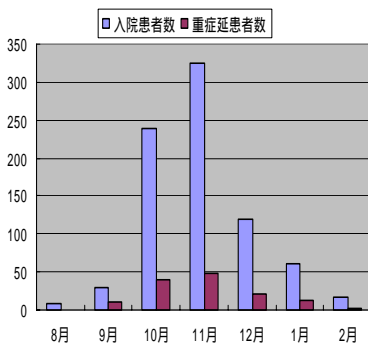
4 型別推移

病原体定点医療機関と、入院患者、集団発生等の検査では、3月8日の10名の集団発生の検体5件のうち4件に、B型インフルエンザ(ビクトリア系統)が検出されましたが、それ以外は全て新型インフルエンザA/H1pdmです。定点医療機関のご協力で行っている迅速診断キットでも、3月に入りB型の割合が比較的増しています。

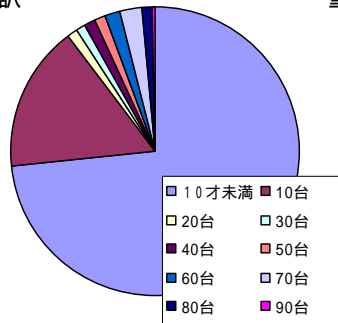


5 市内入院傾向

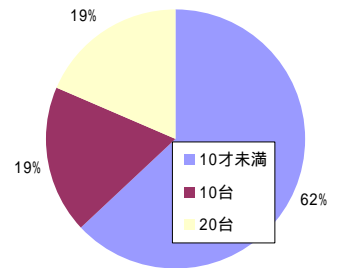
入院サーベイランス開始の8月から2月末までに797人の報告がありました。11月が入院者数も重症相当者数も最多でした。男女比は2対1、10歳未満が73%、10歳代が17%と、20歳未満で全報告の8割を占めています。脳症、人工呼吸器、集中治療の何れかの重症延患者者は、8月にはゼロでしたが、9月には入院患者数の3割を占め、10月から2月では2割程度でした。重症者の実人数では、10歳未満が51人と約6割を占め、10歳代、20歳代が各15人でした。



入院患者年齢内訳

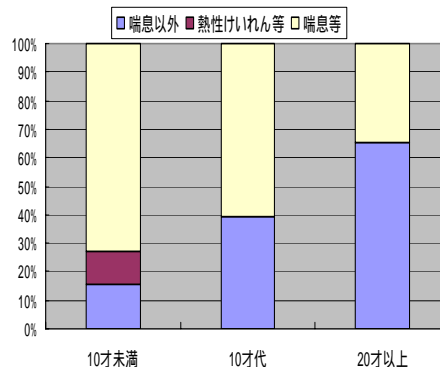
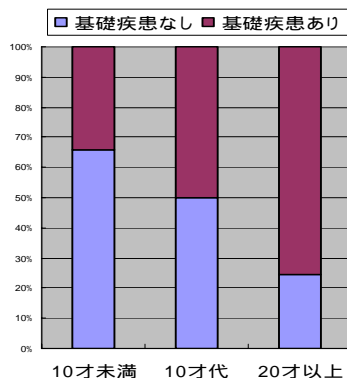


重症患者年齢内訳



6 基礎疾患

10歳未満では、3人に2人は基礎疾患がなく、10歳代は約半数に基礎疾患がなく、20歳以上では、4人に3人に基礎疾患がありました。基礎疾患の内訳は、10歳未満では、喘息や熱性けいれん等小児に多い疾患が85%を占め、10歳代では喘息等が6割、20歳以上では、がん、白血病、心筋梗塞、脳卒中等重篤な基礎疾患が多く見られました。日常健康な人が、突然重症になるリスクは小児の方が多く見られたといえます。

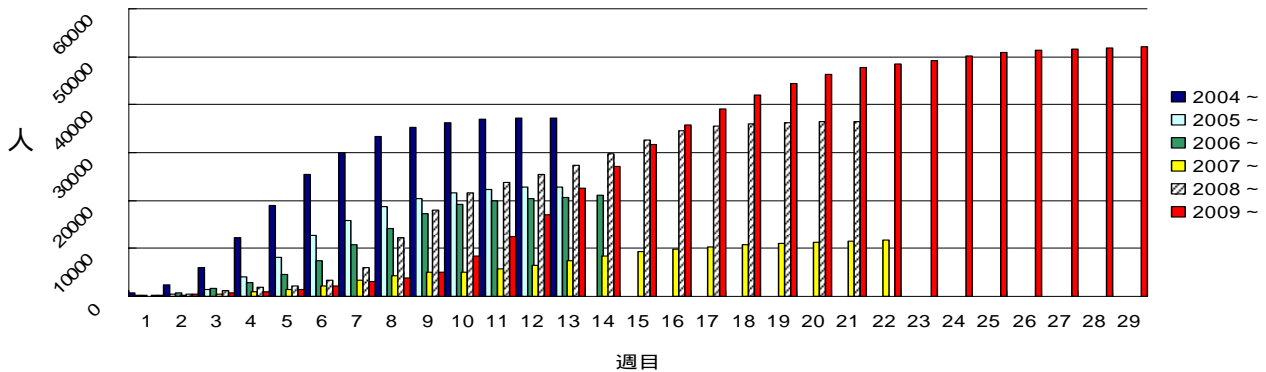


7 過去5年間との比較

定点医療機関からの累積届出人数では、2009/2010 シーズン(以後 2009/)では、立ち上がりがゆっくりで、流行開始から注意報まで9週間要しましたが、その他の年では4週間以内に注意報が出されています。何れもいったん注意報が出ると警報まで3週間以内に移行しています。

2009/の流行のピークは2004/の51.97の約6割程度の39.18ですが、延届出数では52,066人と、過去5年と比し格段に多く見られました。流行の継続も、過去5年間の平均は16.6週間ですが、今回は29週間であり、流行が長く続いたことによると思われます。流行の大きさに比し、ピークの値が低いのは、家庭や施設等各関係者方々の「手洗い、施設閉鎖等」の効果も考えられます。

累積報告人数



	流行開始と継続週間	注意報開始と継続週間	警報開始	30以上継続	警報継続	ピーク週	ピーク値	実人数	市内主流株		
2004/	第3週	13週間	第3週	8週間	第6週	4週間	6週間	第7週	51.97	37275	香港 B
2005/	第52週	13週間	第3週	6週間	第4週	2週間	6週間	第5週	34.21	22837	ソ連 香港
2006/	第4週	14週間	第8週	10週間	-	-	-	第11週	26.8	21003	香港 B
2007/	第44週	22週間	-	-	-	-	-	第5週	8.19	11722	香港 B
2008/	第49週	21週間	第3週	10週間	第4週	2週間	9週間	第4週	45.98	36574	ソ連
2009/	第32週	29週間	第41週	12週間	第43週	4週間	10週間	第44週	39.18	52066	新型

注 流行の開始と継続は、定点あたりの報告「1」以上 注意報の開始と継続は、「10」以上 警報の開始は「30」以上 警報終息は「10」以下

8 まとめ

今シーズンは、流行の程度に比し、通年よりもピークも低く流行の継続も長い傾向にありましたが、ピーク時に一致して、施設閉鎖、入院、重症患者が多く見られました。重症者は基礎疾患のない小児に多く、障害が残る場合もあり、依然としてインフルエンザは重要な疾患です。今後も必要な方に必要な医療が得られるように、**ピークを抑えることが何より重要**と思われます。そのためには、今後も行政のみならず、医療機関は勿論のこと、手洗いや施設閉鎖等を含めた関係者等市民全体の協力が必要と思われます。

また145の定点医療機関や入院医療機関の医師からご提供いただいた情報で、今シーズンもインフルエンザ情報を提供することができました。この場を借りて、篤く御礼申し上げます。必要時、臨時の感染症情報は今までどおり提供いたしますが、今号をもちまして、今シーズンのインフルエンザ情報の提供を終わります。来シーズンが当分来ず、情報を提供する必要の無い事を祈っております。今後も引き続き衛生研究所ホームページをご利用下さい。

横浜市衛生研究所ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局 健康安全課 TEL 045(671)2463
 横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 TEL 045(754)9816
 同 検査研究課ウイルス担当 TEL 045(754)9804